



## 「道路事業」

# 令和8年度北海道開発局事業概要

国土交通省北海道開発局建設部道路計画課

### 事業実施に当たっての方針

北海道開発については、「第9期北海道総合開発計画」（令和6年3月12日閣議決定）において、多様な主体と「共に北海道の未来を創る」ことをコンセプトに、北海道の強みである「食」、「観光」、「再生可能エネルギー」のポテンシャルを踏まえ、豊かな北海道を実現し我が国の経済安全保障に貢献することを目指し、北海道の価値を生み出す「生産空間」の維持・発展を図ることとしています。

道路における具体的な取組としては、「世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成」の実現に向け、農水産物等の輸送を支える高規格道路の整備、新幹線駅に直結するバスターミナルや創成川通（都心アクセス道路）の整備等を推進します。また、「観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり」の実現に向け、道の駅における情報提供の多言語化、シーニックバイウエイ北海道、サイクルツーリズム等を推進します。さらに「ゼロカーボン北海道の実現」に向け、道の駅における急速EV充電施設の設置等を推進します。

気候変動により激甚化・頻発化する水災害や巨大地震等の大規模災害、インフラの老朽化の現状等を踏まえ、「生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり」の実現に向け、災害時における代替性確保のための高規格道路整備や基幹的な道路ネットワークの強化、社会経済活動を支える道路施設の予防保全型のメンテナンスへの転換、i-Snow等のインフラ分野のDX化による現場の生産性・効率性の向上を推進します。

### 令和8年度の新規事業・開通事業

令和8年度は、「一般国道40号 中川天塩道路」が新規事業化し、また、「概略ルート・構造の検討（計画段階評価を進めるための調査）」を進める箇所として「北海道縦貫自動車道 七飯藤城～七飯」を新たに追加し、事業化に向けて着実に手続きを進めてまいります。

主要施策

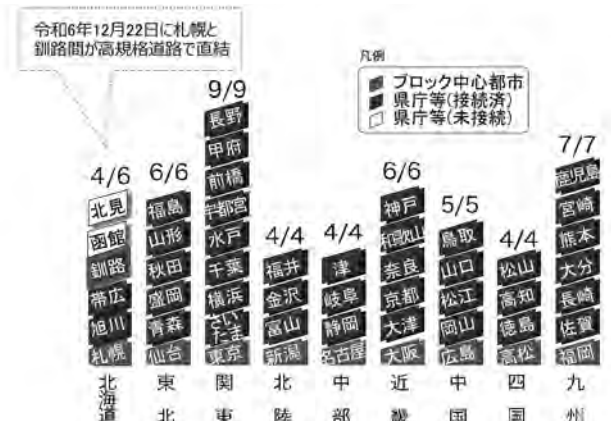
1 北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成

(1) 高規格道路ネットワークの整備

広域分散型社会を形成している北海道において、食・観光等の基幹産業を支えるとともに、国土の強靱性を確保し、地域間の連携強化を図るため、高規格道路ネットワークの整備を推進します。



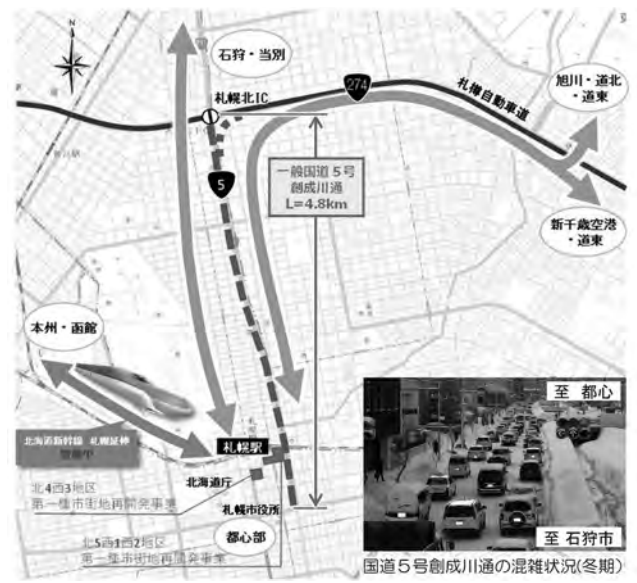
令和8年4月時点の整備の整備状況



高規格道路によるブロック中心都市と県庁所在地のアクセス状況

(2) 札幌における交通結節機能と都市機能の強化

北海道新幹線札幌延伸を見据え、道内各地を結ぶ高規格道路と札幌都心とのアクセス強化を推進するとともに、札幌駅周辺における交通結節機能の強化を図ります。



高速道路と札幌都心とのアクセス強化



札幌駅周辺における交流拠点整備

都心アクセスの強化

・都心アクセス道路（国道5号創成川通）の整備により、交通混雑、交通事故の低減を図り、都市機能を最大化

新幹線駅との連携

・北海道新幹線札幌駅と一体的に整備  
 ・東改札口及び交通広場を整備し、新たな公共交通システム等の二次交通と接続することで、一大交通結節点を形成

新しいバスターミナル

・都市間バス、路線バスを集約するバスターミナルを整備  
 ・札幌駅周辺において新たなモビリティ等多様な交通モードとの連携により交通結節機能を強化

(3) 北海道型地域構造の保持・形成に向けた物流効率化支援及び地域公共交通支援

北海道型地域構造の保持・形成を図るため、地方部の生産空間で生産される農水産品の消費地への輸送

や、地方部への日用品等の輸送といった物流の効率化を支援します。また、生産空間の利便性向上のため、生産空間と市街地をつなぐ地域公共交通の維持を支援します。

＜物流効率化支援＞

○これまで実施してきた道路施設等を活用した中継輸送実証実験を踏まえ、中継輸送に活用可能な国道の道路施設（簡易パーキング等）をまとめた北海道中継輸送ポイントマップを公開しました。



令和7年度より運用開始した北海道中継輸送ポイントマップ



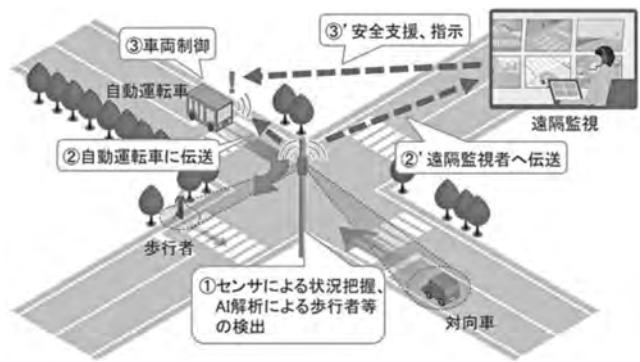
長距離輸送を対象とした中継輸送のイメージ



令和6年度 名寄市<sup>とよみ</sup>砺波でのヘッド交換の様子

＜地域公共交通支援＞

○生産空間と市街地をつなぐ自動運転バスの運行を、路車協調システムにより支援します。



路車協調システム（イメージ）



自動運転の車両（上士幌町）

2 多様で豊かな地域社会の形成

＜「生産空間」の維持・発展に資する「道の駅」の機能強化＞

○地方部の「生産空間」を支える都市機能・生活機能の維持・確保を図るため、日常生活サービス機能を「道の駅」に集約する等、地域の拠点づくりを支援していきます。「道の駅」の交通結節点化等、地域の拠点化に向けた多様な取組を推進していきます。

＜「道の駅」を拠点とした交通結節機能の強化＞

○「道の駅」を拠点とした、生産空間における持続可能な交通結節機能の強化を推進します。

＜「道の駅」における子育て環境の創出＞

○親子で滞在しやすい子育て環境創出のため、子育て応援施設の整備を推進します。

＜「道の駅」における情報提供の多言語化＞

○日本政府観光局（JNTO）外国人案内所の認定取得や、多言語による観光地案内・道路情報提供の充実等の取組を推進します。

### 3 観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり

#### <「シーニックバイウェイ北海道」の推進>

○シーニックバイウェイ北海道は、地域と行政が連携し、美しい景観づくり、活力ある地域づくり、魅力ある観光空間づくりを行う取組です。平成17年度より開始し、現在、15の指定ルートと2つの候補ルートがあり約500団体が活動しています。

また、道内各地の活動団体がお薦めする特に魅力ある景観等を有する道路をシーニックバイウェイ「秀逸な道」として15区間認定し、景観の維持・形成や誘客に向けた情報発信等を重点的に実施します。また、令和5年から「秀逸な道」看板を順次設置しており、北海道のドライブ観光をより一層促進します。

#### <サイクルツーリズムの推進>

○世界水準のサイクルツーリズム環境の実現に向け、安全で快適な自転車走行環境の整備やサイクリストの受入環境の充実、情報発信の取組を推進します。

#### ●自転車月間における散走企画の実施

自転車活用推進法において、5月を「自転車月間」と定められており、どうなん海道サイクルルートでは、自転車月間期間中の特別企画として、世界遺産と食を楽しむコースを設定し、自転車で散歩をするようにその土地の文化、歴史、自然、グルメなどを楽しむ「散走」イベントを開催しました。道の駅「縄文ロマン南かやべ」（垣ノ島遺跡）や大船遺跡といった世界遺産を巡ったほか、食では鹿部町で開催された「鹿部うまいもの祭り」を訪れ、鹿部町の海の幸を堪能し、道南地域の魅力を再確認するとともにサイクルツーリズムの推進に寄与した取組となりました。



どうなん海道サイクルルートで実施した散走企画の開催状況

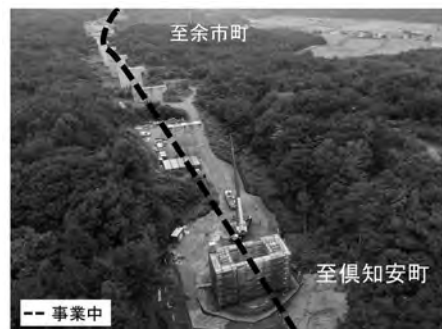
### 4 激甚化・多様化する災害への対応と安全・安心な社会基盤の形成

#### (1) 災害からの迅速な復旧を支える道路交通ネットワークの強靱化

地震・津波による被害や社会的影響を最小限に抑えるため、代替性確保のための高規格道路の整備や緊急輸送道路上の橋梁の耐震補強、道路斜面や盛土等の防

災対策を推進します。

また、気候変動に伴い激甚化・頻発化する気象災害、切迫する大規模地震や急速に進む施設の老朽化等に対応すべく、災害に強い国土幹線道路ネットワーク等を構築するため、高規格道路ネットワークの耐災害性強化や老朽化対策等の抜本的な対策を含めて、防災・減災、国土強靱化の取組の更なる加速化・深化を図ります。



災害に強い国土幹線道路ネットワークの機能強化（北海道横断自動車道（国道5号）倶知安余市道路）



道路法面・盛土の土砂災害防止対策（国道238号 稚内市（対策前））

#### (2) 防災、通行の安全、景観の向上に資する無電柱化の推進

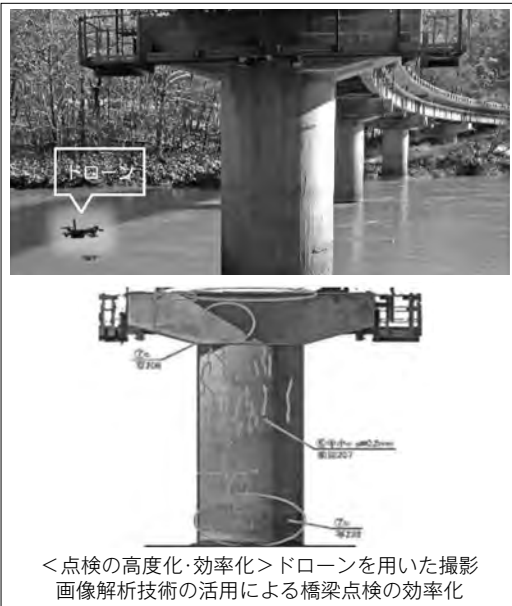
道路の防災性の向上、安全で快適な歩行空間の確保、良好な景観の形成や観光振興の観点から実施している電柱の新設抑制及び無電柱化について、低コスト技術等を積極的に導入しつつ、スピードアップを図ります。

#### (3) 社会経済活動を支える道路施設のインフラ老朽化対策

道路施設が有する機能を長期にわたって適切に確保するため、各施設に応じた点検及び計画的・効率的な維持管理を図り、適切な老朽化対策を推進します。



構造物の修繕（床板補修）



<点検の高度化・効率化>ドローンを用いた撮影  
画像解析技術の活用による橋梁点検の効率化

#### (4) 冬期交通の確保

冬期の安全・安心を確保するため、冬期災害に備え、代替性確保のための高規格道路の整備、国道における防雪対策、防災訓練や住民の意識啓発等を推進します。また、大雪・暴風雪時の取組として、道路管理者間で連携した高速道路通行止め時の並行路線対策やラジオ放送・SNSを活用した情報発信、TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊：リエゾン\*1を含む）の派遣による自治体支援等を、円滑かつ迅速に、きめ細やかに実施します。（\*1：重大な災害の発生または発生のおそれがある場合に情報収集等を目的として地方公共団体へ派遣する職員）

#### (5) 安全・安心な移動環境の確保

事故多発区間での事故データを用いた分析やビッグデータを活用した潜在的危険区間の分析により、事故の危険性が高い区間を抽出して重点的な対策を実施する「事故ゼロプラン」\*2を推進する。

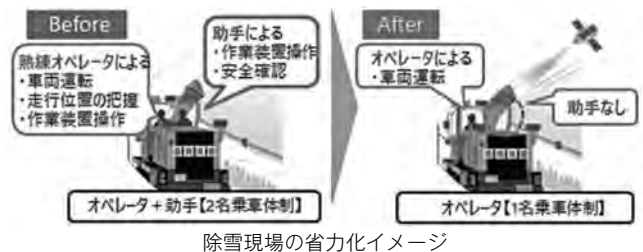
また、生活道路における速度抑制や通過交通の進入抑制を図る面的対策の検討において、ETC2.0プローブデータを活用した分析により自治体を支援し、安全・安心な道路空間の整備を推進します。（\*2：交通事故の危険性が高い区間である「事故危険区間」の交通事故対策の取組）



#### (6) 除雪現場の省力化による生産性・安全性の向上に関する取組（i-Snow）

人口減少や高齢化が進む中、除雪機械の熟練オペレータの高齢化や担い手不足等、除雪を取り巻く課題の解決のため、準天頂衛星「みちびき」と「高精度3Dマップデータ」を活用した運転支援ガイダンスや、投雪作業自動化の実証実験・実働配備を行っています。

機械操作の自動化により、2名体制で行う除雪機械の運転操作が1名体制でも可能となり、人口減少下でも必要な除雪サービスを維持します。



「除雪装置自動制御付」小形除雪車 令和7年度より実働配備開始

### (7) 「道の駅」の防災拠点化

近年、激甚化・頻発化する自然災害に備え、各地で広域的な復旧・復興活動の拠点整備が進められており、地域防災計画に位置付けられた「道の駅」において、地域の防災力向上に資する防災拠点の整備や機能向上を図っています。

令和8年3月末時点では、地域防災計画等で、広域的な防災拠点に位置づけられている道の駅のうち、7駅を「防災道の駅」に選定しています。また、広域災害応急対策の拠点となる防災機能を有する「道の駅」の駐車場を「防災拠点自動車駐車場」として指定しており、令和8年3月末時点で北海道内では36駅を指定しています。

「防災道の駅」をはじめとする地域防災計画に位置付けられた「道の駅」においては、更なる防災機能強化に向けて、BCPに基づく防災訓練等について重点的に支援していきます。

### (8) 北海道道路啓開計画の策定

令和6年1月に発生した能登半島地震では、緊急輸送を確保するための道路啓開の重要性が改めて認識されたところです。これを踏まえ、令和7年4月に道路法が改正され、道路啓開計画が法定化されました。

北海道においては、令和7年8月に関係機関で構成する北海道道路啓開計画協議会を設置しており、道路啓開計画の策定に向けて協議を進めています。

## 5 地球温暖化対策を先導するゼロカーボン北海道の実現

### (1) 再生可能エネルギーの導入拡大、脱炭素化等の取組

地球温暖化防止が重要な政策課題となっている中で、北海道の豊かな自然や地域資源を活かしてグリーン社会の実現を主導していくことが求められています。ゼロカーボン北海道の実現に向けた取組を推進し、持続可能な脱炭素社会の形成を図ります。

### <「道の駅」を活用した次世代自動車普及及び促進の取組>

○令和4年4月に北海道開発局・北海道経済産業局・北海道地方環境事務所・北海道によるワーキングチームを設置し、道の駅設置者である市町村や道の駅管理者と連携し、「道の駅」に急速EV充電施設の設置を目指します。(令和7年3月現在：69/128 54%)

### <道路照明灯のLED化>

○道路の日常管理における電力使用量のうち、道路照明が約7割を占めています。このため、従来の照明よりも消費電力を削減できるLEDへの転換を促進し、CO<sub>2</sub>排出量を削減します。

### <効率的・効果的な渋滞対策>

○北海道渋滞対策協議会において特定されている主要渋滞箇所（道内全128箇所）の解消に向けて、関係機関と連携し、渋滞要因の分析、ソフト・ハードを含めた渋滞対策の検討・実施・評価等を推進します。

(令和7年度末現在 解除候補箇所：15箇所、対策中：40箇所、検討中：73箇所)

### <北海道インフラゼロカーボン試行工事>

○工事成績でのインセンティブを付与することで、道内建設業全体におけるカーボンニュートラルの意識醸成を図ります。

### <自転車活用の推進>

○自転車通行空間の整備やシェアサイクルの普及促進等、自転車活用の推進を図ることにより、交通における自動車への依存を低減し、CO<sub>2</sub>排出量を削減します。



自転車の通行位置を示す矢羽根型路面表示の設置例  
一般国道230号（札幌市）